

会 議 録

| | |
|----------------|--|
| 会 議 の 名 称 | 第90回行田市都市計画審議会 |
| 開 催 日 時 | 令和6年2月5日(月)午後2時から3時20分まで |
| 開 催 場 所 | 行田市産業文化会館2階 2A・2B会議室 |
| 出席者(委員) 氏 名 | 細井 保雄、中村 賢一、田尻 要、加藤 房江、福島 ともお、新 諒平、 稲場 康仁、木口 謙太郎 幹事：高橋 栄一、寺田 定弘 |
| 欠席者(委員) 氏 名 | 朽木 宏、酒井 敦司、石合 龍也、根岸 大輔 |
| 事務局 (担当課) | 都市計画課：吉田副参事、井上主幹、芹澤主査、栗田主任、増田主事 |
| 会 議 内 容 | 議第1号 行田市立地適正化計画(案)について(意見聴取) |
| 会 議 資 料 | (資料名・概要等) ・次第 ・資料1 立地適正化計画(案)について ・参考資料1 行田市立地適正化計画(案)及び行田市地域公共交通計画(案) に関する市民説明会実施結果 ・参考資料2 行田市立地適正化計画に対する市民意見募集(パブリックコ メント)実施結果について ・行田市都市計画審議会条例 ・行田市都市計画審議会名簿 |
| そ の 他 必 要 項 事 | 傍聴人 0名 |

| 発 言 者 | 会議の経過（議題・発言内容・結論等） |
|-------|--|
| | <p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料確認 <p>2 あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会長あいさつ <p>3 議事</p> <p>審議</p> <p>議第1号 行田市立地適正化計画（案）について（意見聴取） 令和6年1月29日付け行都第1528号にて、市長より行田市立地適正化計画（案）について意見聴取があった。</p> <p>議第1号について幹事に説明を求める。 事務局より説明させていただく。</p> <p>事務局 資料1に沿って説明</p> <p>細井会長 ただいま説明があったが、意見等はあるか。</p> <p>福島委員 個人的な考えであるが、本市は、旧市街地はあるものの、新市街地がない。本計画で設定している都市機能誘導区域や居住誘導区域はいずれも今の市街化区域の範囲を維持しての設定である。 これから開発を行って新しい市街地を創出する考えはないか。 また、行田市駅周辺は道が狭く都市機能を誘導する区域として適さないのではないかと考える。 続けて一点確認したい。清水町周辺は居住誘導区域に設定しているが、家屋倒壊等氾濫想定区域に該当しており、問題はないのか。</p> <p>事務局 本計画では、居住誘導区域の設定にあたっては、市街化区域内を基本としている。市街化調整区域で開発を行い、新市街地を創出するといった内容は計画に記載していない。</p> |

| | |
|------|--|
| | <p>また、行田市駅周辺については、計画書の102ページから記載の各施策を実施することで、都市機能の誘導を進めたい。</p> <p>続いて、清水町地区については家屋倒壊等氾濫想定区域に該当しているため、本計画の98ページから100ページに記載の防災指針に係る取組施策により、ハード・ソフト両面から対策を打つ考えである。例えば、方針2 都市空間の構造強化に記載の防災性向上にかかわる地区計画制度の検討など、対策をとることで居住誘導区域に安心して住んでいただける施策展開を考えていきたい。</p> |
| 福島委員 | <p>都市機能誘導区域とするのであれば、道路改善を行っていただきたい。予算の限りもあることだと思うが、現状では道が狭いため、整備は必須だと考えている。</p> |
| 新 委員 | <p>市の計画全体に言えることだが、どの計画も、人口が減少していく国の推計に則って作成しているということに違和感を覚える。</p> <p>一点目として、行田駅から市中心部を結ぶエリア及び吹上駅から市中心部を結ぶエリアを居住誘導区域から除外している理由をお聞きしたい。</p> <p>二点目、目標指標の設定について、目標指標は定量的に確認できることが必要との記載があるが、目標達成により期待される効果の、住みやすい又はふつうと感じている市民の割合という指標について、目標指標は定量的に確認できるものとしている割にふわっとしており、これでは定性的な指標ではないか。</p> |
| 事務局 | <p>一点目の行田駅、吹上駅と市中心部を結ぶエリアを居住誘導区域に指定していないことについては、69ページに記載のとおり、市街化調整区域は居住誘導区域に含まないものとして、指定していない。</p> <p>本計画は市街化区域内にどのように人口を集約するかという視</p> |

点で都市機能や居住の誘導エリアを設定している。行田駅や吹上駅と市中心部を結ぶ途中の区域が入っていないとのご指摘であるが、そちらは市街化調整区域であり、本計画は市街化区域の中をさらにコンパクトにするというものであるため、ご理解いただきたい。

次に、目標指標については、定量的な指標と定性的な指標の両方で設定をしている。住みやすいと感じている市民の割合は現状も比較的高いものであるが、本計画を進めていくことで、今後も住みやすさを低下させることなく、引き続き住みやすいと感じていただけるように取り組んでまいりたい。

新 委員

居住誘導区域の中に行田総合病院やものづくり大学といった施設が含まれていなかったため、そのような質問をさせていただいた。

中村委員

立地適正化計画は県内では22市で作成している。この計画の大きな問題は、どこも国の方針に沿って作っているところにある。国において補助金や交付金、税制優遇などの措置が用意されており、どこの自治体も同じような内容で計画を策定している。国の指導によって全国一律に作成していることが問題である。本市のように都市の空洞化が問題となっている地方自治体のみならず、浦和や相模原などいわゆる日本の居住誘導区域のような地域でも、同じ方針に基づいて交付金を目的として計画を策定している。そうではなく、地域の実情に応じてもっと柔軟に計画策定していく必要がある。農業をやっていて一番のリスクは国の交付金制度の変化である。何か新しいことをやろうとすれば何かをやめるなど、恒久的な国の制度というものは存在しないため、国の指針に疑問をもって作成する必要があるのではないか。

市民説明会にも参加し様々な意見を聞いたが、一番の課題は空き家と公共交通である。居住や施設を誘導したとしてもそこが空き家ばかりでは問題がある。空き家対策の記載もあるが、具体性

に欠ける。

また、施設や居住を集約して歩いて行ける環境とあるが、果たしてそれが本当に良いのか。車で行けるから郊外の方が住みやすい、中心部に住むと歩いていかなければならないといった声も聞いている。歩いて行ける環境は、現実的に考えるとそれほど良いものでもないのではないかと考える必要がある。

続いて、パブリックコメントについて、5名の意見があったということで、私も意見を提出しているがやはり少ないと感じる。一般市民からすればパブリックコメントも市民説明会も市民の意見を聞いたというアリバイ作りのように見えてしまう。

パブリックコメントの取り扱いについて申し上げたい。パブリックコメントはインターネットで公開されるため、個人的には、こういった意見もあるということを広く知らしめるために意見を提出しているが、市の方で意見を切られてしまっている。前段があり意見を述べているが、その前段が切られてしまうと意見が正確に伝わらないため、できれば全文を掲載の上、必要な回答をしていただきたい。パブリックコメントの結果について、いつ公表されるのかと気になって見ているが、まだ公表されていない。

また、よく見ると抜けているところもある。例えば公共交通の部分で、公共交通計画に記載にある新たなモビリティサービスの導入について、令和6年度に検討を行い、令和7年度に実施予定とあるが、このスケジュールでは既に腹案があるのではないかと、そのような内容の意見を提出しているが、それが抜けてしまっている。また、地域コミュニティを生かし、助け合いを基本にしながら地域通貨などを報酬に自家用車を活用した運送サービスなども提言しているが、これも抜けてしまっている。こういったものはなかなか難しいとは思いますが、制度としては自家用有償旅客運送制度というものもある。地域住民の足として、簡単なものでよいので何か工夫してできればと考えている。

以上、意見として申し述べたので回答は結構である。

加藤委員

行田市駅や東行田駅周辺という既存の拠点ありきの話だと受け止めた。他の地域に居住する方もいるので、もっと広い視点から作成しても良いのではないか。先程から話題に上っている「新市街地」という考えも良いと思う。私も市内に居住しているが、中心市街地は狭いので通行を避けてしまっている。そういうことを考えると、新しいまちづくりということも、行田の魅力を向上させるために必要と感じている。

この会議の前に知人に話を聞いてみたが、市内には子どもが遊べる場所が少ない、遊具があったとしても少ないといった意見があった。やはり、子どもを連れて遊びに行こうと思ってもあまり遊べる場所が少ないのかなと感じた。

また、食事に行こうと思っても、どこにでもあるようなお店ばかりで魅力的なお店も少なく、近隣市に出ていってしまうことが多いという意見があった。熊谷市では、うどんのスタンプラリーを実施したり、有名ユーチューバーとコラボするなど上手にPRを行っている。宣伝を上手に行い、もう少し行田市を魅力的に見せていければ良いと思う。

本学のある羽生市では愛藍タウンとしてスーパーやホームセンターなどが建ち並ぶ大きなモールがあり、その裏手には住宅地の開発が進んでいる。過去の卒業生の中にも愛藍タウンに住み始めたものもいると聞いている。やはり新しい人を受け入れることのできるまちづくりが必要だと感じている。

農業の担い手が少なくなっている中、農業委員会と連携して土地利用の制限を緩やかにすることはできないものか。

事務局

初めに、子どもの遊び場が少ないという意見も伺っており、これに関しては、来年度、水城公園に大型遊具の整備を考えている。

次に、お店が少ないといったことについて、商店街の賑わいがないという意見は聞いている。商店街の活性化や空き家対策については、起業家支援事業など様々な事業で活性化が図られるよう考えている。

| | |
|-------------|---|
| | <p>続いて、市のPRについては、本市でも市内のうどん店に有名なユーチューバーに来ていただいて、その後賑わっているお店がある。今後も有名ユーチューバーとのコラボなどしていただければ良いと考えている。</p> <p>最後に土地利用についてであるが、規制緩和は難しい。まちづくりと農地の保全是表裏一体と考えている。開発できる場所、できない場所があるため、できる場所を探しながら進めていければと考えている。</p> <p>空いている農地を使って新市街地をつくるといったご意見もあったが、優良農地は守っていかなければならない。農業者も高齢化が進んでいるため、効率的な農業経営のためには広い農地で集約型の農業を進めていくことが必要である。そこに開発が入っていくことで農地が分散してしまうことは問題がある。</p> <p>立地適正化計画は市街地の中の話であって、人口減少が進む中である程度行政サービスを集中していく必要があるということからこの計画を作成していると思うが、一方で、農村地域が取り残されていくという指摘もあるので、それに関しては、この計画とは別に、そのような地域をフォローする計画を作っていけば良いのではないか。農業者も市街地に居住するかといえばそれは難しく、やはり農村地域で生活を営んでいくことになる。誰もが行田が良いと思えるような施策を考えていっていただきたい。</p> |
| <p>稲場委員</p> | <p>他に意見がないようなので、議第1号 行田市立地適正化計画（案）については、本日の審議内容を踏まえた上で、意見を付し、市長へ回答することで、異議はないか。</p> <p>(異議なし)</p> |
| <p>細井会長</p> | <p>異議なしと認め、審議内容を踏まえた意見を付し、市長へ回答する。</p> |

以上で議事が全て終了したので、議長を解かせていただく。

審議終了

傍聴人退出

事務局

4 事務連絡

- ・立地適正化計画の今後のスケジュールについて

この後、庁内決裁を経て、約1か月間、計画内容及び届出制度の周知期間を設け、3月末に計画を公表したいと考えている。

- ・連絡方法の変更について

今後の連絡方法を原則電子メールに変更させていただく。

- ・次回の都市計画審議会について

今後、審議いただくべき案件が生じれば、随時開催させていただく。

5 閉会